ケアマネ連信

No. 40

鳥栖地区介護支援専門員協議会

事業所内での回覧お願いします!

発行: 平成 28年12月16日

事務局:東町わたや薬局内 担当: 松雪幹一 木下里美

TEL: 0942-81-3039FAX: 0942-81-3053E-Mail: hwataya@vip. saganet. ne. jp

URL: http://www.tosukaigo.com/

【協力:鳥栖地区広域市町村圏組合介護保険課】



1. 会長幾變

鳥栖地区介護支援専門員協議会 会長 梅木 康一

皆様こんにちは

暖かい日が続いており、いつ寒くなるのかと思っていたら、あっという間に11月後半、 次第にその月らしい寒さに変わり始めました。会員の皆様にとっても在宅系では年末年始 の調整や訪問の日程調整、施設系では面会時のプラン確認準備等、あわただしい時期を迎 えているのではないでしょうか。年を重ねる度に1年間のスピードがどんどん速く感じる 今日このごろです。

さて、今年のケアマネ協議会の活動を振り返りますと、大変忙しい年でありました。 7月には各地区持ち回りで行っているケアマネジャーの研究大会が鳥栖地区で行われ、その準備や調整で会員の皆様にも大変ご尽力を頂き、盛大に研究大会を開催し無事終了することが出来ました。又、先日上峰町で開催された介護の日では、広域内の各協議会を代表し、ケアマネ協議会が中心となり、開催町と広域市町村圏組合合同で相談会や展示会、予防講演会を実施しました。相談会にご協力頂いた会員の皆様、展示にご協力頂いた事業所の皆様、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。現在取り組んでおります研修事業関係では、佐賀県より地域医療介護総合確保基金事業の予算が降りた為、 地域包括ケアシステムに特化した研修会を全3回計画しました。既に1回目は終了しておりますが、2回目は12月7日、3回目は来年2月13日にそれぞれ予定しております。 普段の研修会ではなかなかお呼び出来ない講師の先生をお招きし、研修会を計画しておりますので、是非ご参加頂ければと思います。

本当に忙しかったと感じる1年間でしたが、来年4月からは総合支援事業がスタートし、翌年には介護と医療の同時改正が控えております。これからますますケアマネジャーは忙しくなることが予想され、合わせて資質の向上も求められています。ケアマネ業務は訪問に事務処理、精神的にも肉体的にも大変な業務です。体調管理に気をつけ、無理のない範囲で頑張っていくことが大事ですよね。困った時は一人で悩まず、いつでも協議会へご相談下さい。

ケアマネ協議会では県内で開催されているケアマネ研修を随時ホームページにてご案内しております。是非ご活用頂ければと思います。合わせて私たちと一緒に頑張ってくれる役員さんも募集しております。自薦、他薦問いませんので、是非ご相談頂ければと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



2. 薬剤師会よりアンケート報告

「介護支援専門員の抱える、薬剤管理、薬剤師による居宅療養管理指導における問題」 「お薬整理相談バッグ事業」アンケート結果(平成28年10月)

佐賀県薬剤師会 鳥栖三養基薬剤師会

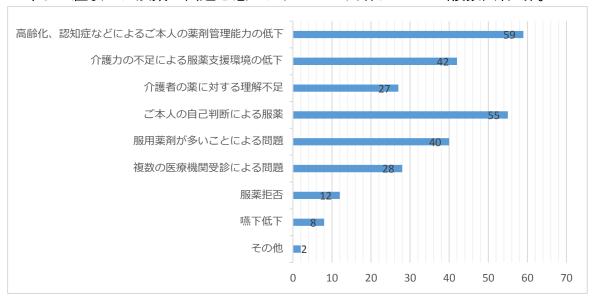
○ アンケート調査ご協力誠にありがとうございました!業務改善や質の向上に活用させて頂きます。 お薬整理相談バッグ事業、下記報告書 Fax 願います。

象 : 介護支援事業所、地域包括支援センター所属の介護支援専門員

◇方法 :「お薬整理相談バッグ事業」説明会終了後にアンケートを実施

◇回答人数: 69 名

1. 今まで経験した残薬が問題と感じたケースの内容について(複数回答可)。



- 2. 服薬管理や援助に関して今まで特に問題を感じたケースをご記入ください。
- ①【残薬対応の問題】
- ・残薬が多かったので一度薬局にもっていって整理してもらいましょうと言ったら「俺が金を払ったから返さなくていいだろう」と激怒され、何度説明してもご理解いただけなかったので諦めた。
- ・認知症の進行があり、家族とのかかわりがなかった方で、昔もらった薬をどこからか探し出し、「元気になるから」と服用しようとしていた。往診の際に医師に説明してもらい、何とか引きとってもらえた。
- ・残薬確認を行い、残薬があっても利用者本人が「飲んでいる」と言い切ってしまう。残薬の状況説明をすると立腹してしまい、その後の関係が悪くなる。
- ・残薬がかなりあったため、ご家族に相談したがなかなかかかわってもらえず、医師に相談しても特に対応してもらえなかった。家族に話を続け、現在は医療機関を変わられ、家族のかかわりもあって管理できるようになった。
- ・残薬が多いため、主治医に相談するも、「飲ませてください」で済まされる。訪問ヘルパーに服薬管理を依頼してもできない。
- ・慢性的な薬や胃薬、ビタミン剤などの残薬が多い。

②【薬に関する理解の問題】

- ・利用者・家族ともに病識が薄い。
- ・内服薬量が多すぎて本人判断により服薬されない。
- ・家族が薬嫌いなどの理由で利用者に飲ませない。
- ・薬を飲んだら具合が悪くなるからと、医師に相談せずに服薬しない。
- ・薬に依存的で、複数の医療機関から同じ薬も含め、多くの薬を飲んでいた。利用者の理解が得られず、調査できなかった。
- ・近医にかかった際、主治医の病院にかかっていることを隠して受診し、同じ作用の内服薬を服用されていた。
- ・薬の数が多いという理由で、自己判断で服薬をやめていた。
- ・自己判断で服薬をやめてしまう。
- ・家族の薬・疾患に対する理解不足。
- ・薬剤への理解不足により薬を飲み忘れてもいいと思っているので外出時に薬を持ち歩かない。
- ・利用者、家族ともに服薬管理ができていないことを問題と感じていない。
- ・指導内容を受け入れず、独自で判断される。
- ・利用者が認知症を認めずに自己管理したがる。
- ・複数の医療機関を受診し、処方も重複している分があるが、受診し続け、重複薬は自分で捨てていると言われる。
- ・自己判断で服薬を中止し、状態の悪化が見られた。
- ・薬への理解がなく、まったく服用しなかった。自己判断で薬を減らした。

③【服薬管理方法の問題】

- ・カレンダーに貼ったり、お薬カレンダーにセットをしても日付がわからないので飲みすぎてしまったりすることがよくある。
- ・認知症がある方で、服薬カレンダーに入れ、紙を貼るなどして工夫して支援していたが飲み忘れが多くあった。送迎の職員に協力を求め、ケアマネも確認に行くが、なかなか改善できなかった。
- ・独居、認知症のケースで、自分でできると言われ、介入ができない。
- ・独居の方の認知症進行による服薬忘れ。
- ・家族の支援がない方の服薬が難しい。
- ・独居の方でお薬カレンダーに薬を入れていてもご本人が違う日の薬を服用される。
- ・独居、認知症であり、カレンダーを作っても服薬を忘れてしまう。
- ・一人暮らしの方はどうしても飲み忘れがあり、残薬が増えていくという経験が今までに 何度かある。自分はしっかりしていると思われている方に多い。
- ・自己管理できない方で、服薬は毎日、かつ1日複数回服用の場合の支援に苦労した。
- ・独居の方の服薬管理が難しい。
- ・認知症があり、薬が管理できない。
- ・日付、曜日の把握ができず、重複して飲んだり、飲み忘れていたりする。
- ・食事をせずに服用する。独居で認知症の方への支援。服薬確認、指導をしにくい。
- ・服用薬剤が多いことによる副作用。認知力の低下が見られるがプライドが高く、家族の意見を聞かないで自己判断、自己管理をされている。

④【薬剤使用方法の問題】

- ・認知症はなく、自分はしっかりしていると思われている方で、自己判断でフランドルテープを1回に2枚貼付していた。プライドが高く、説明が難しかった。
- ・病状、症状から服薬の必要性があっても本人の拒否で服用しない。
- ・認知症の方で薬を重複して飲んで体調不良になった。
- ・認知症の方で家族の介入も不十分な状況。自己判断で1回分を2回に分けて飲んだり、 管理ができていない。
- ・薬包紙から出すことができない、粉薬が飲めないなどの状況で、残薬が多くある。

⑤【受診の問題】

- ・体調不良を訴えると薬の数が増えるので素直に医師に相談できないと言われたことがある。
- ・院内処方されている方の薬の種類が多すぎる。
- ・複数の医療機関に受診し、薬が重複している。
- ・薬の量が多すぎて自己管理ができない。
- ・動悸が増えたことにより受診回数が増え、薬が増え、混乱して自己管理困難になった。
- ・医師によっては、本当に必要なのかと思うぐらい薬の数が多いことがある。
- ・医師に症状を言うと次々に薬が出されるので意図的に飲まない薬がある。
- ・医師が薬を出しすぎると困る。
- ・複数の病院で処方され、処方日数がそれぞれ違う。
- ・他科受診、重複処方について、どちらの医師に調整を求めても処方を修正されず、調整 するのに時間を要した。

⑥【服薬援助の問題】

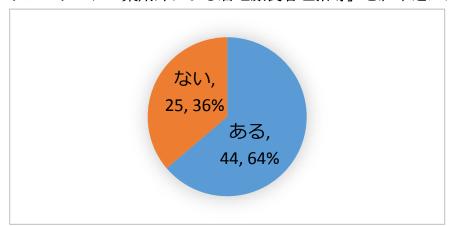
- ・定期薬がなくなり、ご家族の判断で薬を中止してあった。その後、体調不良に。
- ・複数の薬を、処方された日にヒートを切り離し、服用時に混乱してしまっている。ケアマネがその整理を行うには負担が大きい。
- ・ヘルパー訪問やケアマネ訪問時は確認して服薬の声掛けを行うが、他の日が服薬できていない。
- ・独居、認知症があり自己判断で内服する。訪問看護管理下でも指導が行き届かず対応に苦慮した。
- ・薬の中には溶かしてはいけない薬もあるのではと思いながら、服薬拒否、嚥下低下のためお湯で溶かして服薬してもらっている。
- ⑦【薬の効果や副作用による問題】
- ・薬の飲み合わせによる副作用。

⑧【サービス導入の問題】

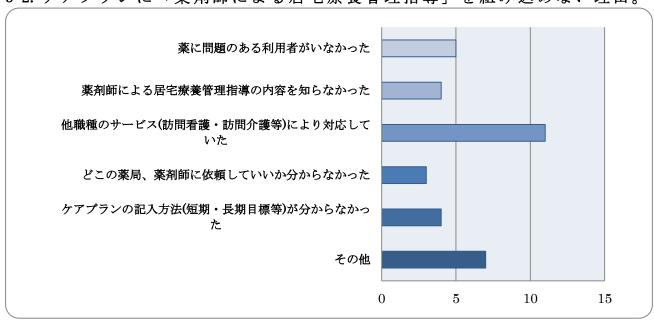
- ・医師から服薬確認の指示が出ていたが、入浴等、他のサービスが必要で、服薬確認にサービスが調整できなかった。
- ・服薬については社会資源も使いにくい(近所の方に頼むことができないなどの理由から)。
- ・独居で認知症の方の残薬が多く、ヘルパーさん〜服薬の確認をお願いしたが、利用者の 拒否があり、うまくいかなかった。
- ・居宅療養管理指導の同意が得られず、管理ができないことがあった。
- ・独居の利用者で認知症の方は、援助が必要な状態だということをなかなか理解していただけず、介入が難しい。

⑨【薬局業務の問題】

- ・お薬手帳が何冊もある。
- ・嚥下状態が悪い方への服薬援助。
- ・利用者の生活リズムと服薬タイミングが合わず服薬しにくい。
- ・処方された薬の他に、自己判断で市販薬などを飲んでおり、家族も容認。健康食品や市 販薬を飲ませて処方薬を飲まないこともある。
- 3. ケアプランに「薬剤師による居宅療養管理指導」を組み込んだことがありますか。



3-2. ケアプランに「薬剤師による居宅療養管理指導」を組み込めない理由。



- 4. 薬剤師による居宅療養管理指導について、お気づきの点があれば自由にご記入ください。 【有効と思われるケース】
- ・本人が忘れてしまうので、薬の変更などあったときに連絡がもらえて助かった。
- ・なぜこの薬を飲まないといけないのか、服薬しないとどうなるのか等を薬剤師から説明してもらうと安心して服薬できると思う。また、残薬確認をしてもらうと助かる。
- ・ケアマネだけではご本人への促しにも限界がある。薬剤師に一緒に関わってもらうことで、役割を分けながら多職種で関われるのでいろんなアプローチが図れ、とてもありがたい。飲み忘れを防ぐための手法、Dr との連携も素早くできるので、ご本人にとってとても良い。

- ・定期的に訪問していただき、残薬や飲み忘れの確認ができるので独居の方や高齢のご夫婦、家族の介護力の低い家庭では管理が非常に容易になった。
- ・薬剤師に入ってもらうと薬の管理がうまくいくようになり、大変助かる。

日付、氏名を印字しての一包化、薬箱へのセットをしてもらい、助かっている。

- ・専門職の見地から様々な提案を受けるので心強い。
- ・薬についての質問にすぐに答えてくれたのでご家族も安心された。薬の変更なども見極めが早く、医師にも話していただきご家族の安心感が高い。

【あまり有効でないと思われたケース】

・2週間に一度の訪問であまり役に立っていない

【薬局への希望】

- ・薬の変更があった場合は早めに連絡をしてもらいたい。
- ・薬の種類が多く、似たような薬が何種類か出ている場合、医師に確認をし、本当に必要かどうか検討していただきたい。
- ・居宅療養管理指導を導入する前にケアマネに伝えてほしい。導入後にケアプランにおと してほしいと言われることがあるが、今後、先にケアプランにおとすことになるので理解 してほしい。
- ・本人、家族が薬の管理をできない家庭では、1 日 3 回の服薬管理はできない。他職種と話し合いながら服薬量、服薬回数を減らし、確実に服用できる環境を作ることが必要。
- ・提供表をくださいと言われるが、実績報告はいただけない。
- ・居宅療養管理指導した結果の情報ができるだけ早めにほしい。指導していただいた内容がわかりやすければありがたい。介護保険制度にてサービス計画に位置付けるようになっており、カンファに参加し、意見をもらう必要があるのでご協力お願いしたい。
- ・訪問後の報告がすぐにあると状態を把握しやすく大変助かる。報告書類が多すぎると整理するときに困る。
- ・ケアプランに入れても主治医の指示で回数が変更になることが多く、組みづらい。
- ・サービス開始後に報告を受けることが多い。事前に報告を受け、情報共有したうえでサービス提供してほしい。

【問題があったケース】

- ・施設の薬を薬局に依頼した際、薬の管理、日付の記入を依頼するも間違いが多いため、 すべて施設の看護師が対応していた。薬を配達するだけで居宅療養管理指導を入れ込むこ とに矛盾を感じながらもそのままプランに入れており、今ではもう少し踏み込んで動けば よかったと後悔している。
- ・知らない間に居宅療養管理指導をとられていることが多い。
- ・有料老人ホームではいつの間にか居宅療養管理指導が始まっていたところがある。必要性を感じられないが、施設の方針で決まっているようだ。
- 住宅型有料老人ホーム利用者にいつの間にかサービスが入っていた。
- ・本人管理でなく施設が管理している方にサービスが入っていた。
- 一方的にサービスを入れられる。
- ・薬の管理をできる方に、薬の配達として利用されている。そのため、介護保険のサービスはないものの、介護保険を申請し、薬剤師の居宅療養管理指導をとられていた。
- ・住宅型有料老人ホームにて、居宅療養管理指導が必要との施設側からの意見で導入する も、利用者と薬剤師間での指導が適切に行われているか疑わしい。「複数入居者さんの薬を 届ける」サービスになっているのではと感じる。利用者の居室に薬の配置はなく、職員が

配っている。報告書も上がってこない事業所がある。

- ・薬局により、対応に大きなばらつきがある。
- ・報告書の文章内容が毎回同じになっていることがある。

【導入のための問題】

- ・利用料が高いため、利用者・家族から理解が得られない。必要性まで理解してもらえない。
- ・ケアマネが居宅療養管理指導の必要性について本人や家族に説明しても理解してもらうのが難しい場面が多い。実際に利用されている方は主治医からの説明があって、薬局との連携があり、本人も家族も納得されたうえで利用されている。本人・家族が納得されたうえでプランへ位置付けるほうがスムーズにいくと思う。
- ・月に数回の訪問で具体的にどのようなことができるのか心配。
- ・必要な利用者の方に居宅療養管理指導を声掛けするが、家族・本人の理解がなく、サービスにつながりにくい。
- いまいち連携がとりづらいイメージがある。

【かかりつけ薬局の問題点】

- ・薬剤師のほうからもかかりつけ薬局を患者に勧めてほしい。
- ・今までの薬局を変えたくない。と、言われ、患者は 1 つの薬局にまとめることに協力的でない。

(一社) 佐賀県薬剤師会 会長 佛坂 浩 在宅医療委員会 委員長 松雪 幹一

佐賀県薬剤師在宅医療推進支援事業 「お薬整理相談バッグ(残薬ゼロ)事業」協力依頼

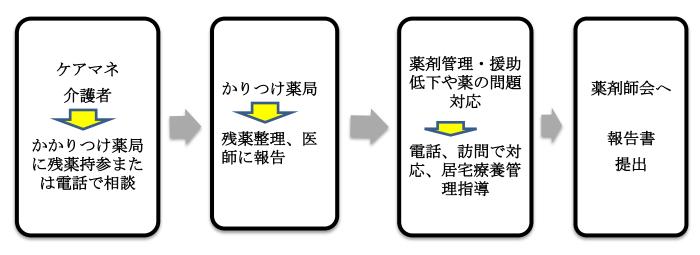
佐賀県薬剤師会では医療費削減を目的に一昨年からお薬整理相談バッグ(残薬ゼロ)事業を行っています。この事業は患者から残薬を薬局へ持参して頂き、処方医に残薬を用いた処方を行ってもらう事で医療費を削減するもので、十分な効果があると検証結果が出ています。今年度は医療費削減と残薬が出る原因を見つけ解決することで在宅療養中の方の薬物療法の向上を目的に本事業を佐賀県介護支援専門員協議会と共催することとなりました。

・ 本年度はケアマネの担当する在宅療養中の方の残薬やお薬に関する問題を薬剤師と共 に解決することで今後につながるケアマネとの業務連携を目指します。

記

事業調査期間:平成28年11月1日(火)~11月30日(水)

1か月間



- ケアマネ用報告書は事業終了後に1人1枚提出ください。
- 残薬整理相談バッグ及びチラシが必要な方は連絡ください。
- 継続的な事業です、今後もお薬についての相談はかかり つけ薬局

にご相談ください。



【調査期間】平成28年11月1日(火)~11月30日(水)

ケアマネ用 お薬整理相談バッグ (残薬ゼロ) 事業 報告書

提出日平成28年12月

佐賀県薬剤師会 在宅医療委員会 松雪 幹一

事業所名	担当	者名	
事業所の電話番号	,		
1. この事業の感想をお聞かせください。			
① 有用	②やや有用	③余り有用でない	
2. <u>1. で①~③</u>	<u>)</u> を選択した理由をお	書きください。	
1. 11月1ヶ月	間で配布したお薬整	理相談バックの数をご記入	下さい。
2. 薬局・薬剤師	iに相談した件数をご	記入下さい。	枚 件
3. 相談事項は解	決しましたか?それ	ぞれ件数をご記入下さい。	
①解決した			
②解決しなかった	または相談継続中		
4. 相談事例を簡	5単にご紹介ください	o	_

送信先FAX 0952-23-8941 佐賀県薬剤師会

3. 研修盒の報告



鳥栖市若葉弥生が丘地区地域包括支援センター 松林和子

平成 28 年 10 月 21 日に今年度第 2 回鳥栖地区介護支援専門員協議会全体研修会を下記のテーマで行いました。

講演1.「地域包括ケアシステムの概要と医療連携について」

講師:鳥栖三養基地区医師会 理事 山津 善保先生

日本の人口動態から超高齢社会の課題と対応まで幅広く説明をいただきました。認知症のケアについても、他人事ではすまされないような現状と問題点が日々報告されています。地域包括ケアシステムの中で「多職種連携」は「繋がる事」であり、顔が見える関係性を重視し、コミュニケーションを重視して働きかけることにあります。私たち介護支援専門員に求められていることであり、高齢化社会を地域でどのように支えていくのかをますます考えていかなければなりません。

また在宅療養に必要なものとは?との説明で「少しのお金と三種の神器」 ①信頼できるかかりつけ医②信頼できるケアマネジャー③頼りになる地域包括支援センターと聞いて、気を引き締めないといけないと感じたのは私だけではなかったと思います。

専門職だけでなく、地域で生活している人すべてに地域包括ケアシステムの考え方を 広め、理解し、協力していただく事が必要になってくると感じております。

講演2.「介護支援専門員と薬剤師による【お薬整理相談バック事業】協力依頼」

講師:佐賀県薬剤師会 理事 松雪 幹一 先生

薬剤師会では今後、多職種との顔のみえる関係作りと薬剤師の専門性を生かした取り組みを進めていきたいと話をされました。その一環として自宅にある薬を整理する事で、適切な投薬が出来、医療費削減に繋がり、居宅支援を一緒に展開していくきっかけにしていきます。是非、モニタリング等で居宅訪問される場合には【お薬整理相談バック】を持参いただき、本人やご家族と薬について話をしてみてください。

以上、研修の報告とさせていただきます。



4.アンケート結果



居宅介護支援事業所ほほえみ 赤川 ひふみ

研修日時:平成28年10月21日(金)14時00分~16時00分

場所: JAグリーンパレス

講演:1、「地域包括ケアシステムの概要と医療連携について」

講師:鳥栖三養基医師会 理事 山津 善保 先生

講演:Ⅱ、『介護支援専門員と薬剤師による{お薬整理相談バック事業}協力依頼

講師:佐賀県薬剤師会 理事 松雪 幹一 先生

参加者:87名

回収率: 79名 (90%)

1、参加状况

- ① 性別 男性··17名 女性··62名
- ② 年齢 20代(0名) 30代(20名) 40代(29名) 50代(23名) 60代(7名))
- ③ 基礎資格 介護福祉士:40名 看護師:18名 社会福祉士:13名 薬剤師:1名 栄養士:1名 歯科衛生士:3名 その他資格:3名
- ④ 経験年数 1年未満:3名 1~2年未満:10名 2~3年未満:6名 3~5年未満:11名 5~6年未満:5名 6~7年未満:7名 7~10年未満:13名

10年以上:24名

- ⑤ 勤務している事業所種別 居宅:49名 施設:12名 病院など:0名 その他:18名
- 2、 本日の研修内容は如何でしたか
 - ① 満足(64名) ②満足とは言えない(1名) ③どちらとも言えない(14名)
 - ② を選ばれた方について
 - ・服薬について、もっと詳しく時間をかけて欲しかった。

- 3、研修時間は如何でしたか?
 - ① ちょうど良い (65名) ② もっと聞きたかった (3名) ③ 長かった (5名)
 - ④どちらでもない(6名)
- 4、研修の日時については如何でしたか?
 - ① ちょうど良い (64名) ② 悪い (1名) ③ どちらでもない (14名)
 - ・本日の研修に限って言えば、今月は高齢者要望等実態調査も行わなければならず 時間の調整が大変だった。
- 5、今後の研修で取り上げて欲しい研修テーマ・講師や講演者の希望
- ・地域包括ケアシステムを実現するためにケアマネができること(役割)
- 総合事業について
- ・モチベーションを維持するための方法やストレスと付き合う方法など、精神面や心についての研修も取り上げて欲しいです。
- ・松雪先生の薬のはなし、もっと深く聞きたいです。(在宅での薬の問題、結構たくさんありそうです。気づいて無い分もたくさんありそうです。)
- 6、本日の研修内容についての感想や意見
- ・かかりつけ医との関わりは大事だと感じました。
- ・各専門職との連携や地域とのよりよい関係作りを行い、皆さんで支援を行い、自立した 高齢者の育成が必要と思った。
- ・地域包括支援センターが実施している地域ケア会議にも多く参加して頂き、地域包括ケアシステム・医療介護の連携についても、わかりやすく伝えて頂いた。介護支援専門員の方々にも、理解を深めてもらったと思った。
- ・大変わかりやすい、内容でした。
- ・今後の業務に役立てて行こうと思います。
- ・介護・医療連携等、全体像がわかりやすかったです。
- ・先生の話が早すぎて、ついていけなかった。
- ・地域包括ケアシステムと医療連携は、分けて研修してもらうと、より深く理解が出来る と思いました。
- ・照明の調節は、前もって準備しておいて欲しかった。全く集中できなかった。
- ・内容が盛りだくさんで、付いていけなかった。
- ・先生の話が資料の読み上げで、早口すぎた。
- ・空調の調節が不十分で寒かった。
- ・資料の一部分が、文字がとても小さく少し見にくかった。

5. 介護の日フェスタの報告

花のみねケアプランサービス 江口 俊

毎年行われています「介護の日フェスタ」が本年度は11月13日に上峰町民センターにて開催されましたのでご報告させていただきます。

今年も介護支援専門員協議会の介護相談、薬剤師会のお薬相談、栄養士会の栄養相談、 日本コンチネンス協会の排泄相談などの相談ブースを設け、福祉用具展示、介護食・栄養 食展示、介護施設利用者様の作品展示などを行いました。来場された方は熱心に相談や見 学をされていました。また、今年はスタンプラリーを実施し、すべてのスタンプを押すと 特製のクリアファイルや栄養食の試供品を多くもらえるような企画をし、多数の方が笑顔 で帰られる姿が印象的でした。

記念講演会では二人の講師に来ていただき、高橋亜紀先生より"「ひらけからだ」姿勢改善うんどう"、西城眞人先生より"「頑張らないうんどう」"の演題で講演をして頂きました。高橋先生からは、女性が日頃使っている"髪ゴム"を利用した、座りながらでも体を動かせる運動を教えていただきました。参加者も一緒に行い、運動後はいつも丸く縮こまっていた背中がピンッとなり、体もスッキリしたように感じました。西城先生は、いつまでも元気に暮らす為に、日頃から首肩腰を無理のない程度で動かし、肩こりや腰痛を予防するようにと話されました。時にはおもしろおかしく会場中に笑い声が絶えず響き、最後の先生の本には欲しい方のジャンケン大会まで行われるなど終始、大盛り上がりの講演会でした。

相談展示ブースや講演会など充実した内容のイベントでしたが、今回初めての日曜日の開催で、地域の行事が複数重なったこともあり、来場者が例年に比べて若干ですが少ない状況でした。実行委員の反省会では、多くの地域の方々に参加していただき介護予防を一緒に学べるようにするために、今後は開催曜日の再検討が必要との意見もありました。今回の反省点を踏まえ来年度のイベントに活かせたらと思いました。

最後になりますが、上峰町・介護保険課・ 準備から後片付けまで多数の方にご協力 頂き誠にありがとうございました。 来年度は基山町で二回目の開催となります。

(年度は基山町で二四日の開催となります。 - 以上でご報告とさせていただきます。



6. 地域包括支援センターより

ケアマネの皆様よろしくお願い致します(^-^)

鳥栖市田代基里地区地域包括支援センターです。

8月1日より、センター長として働いております永松大幸と申します。

これまでは施設内で働く事が多かったのですが、今は外出することも多くかなり 地理に詳しくなりました。まだまだ勉強不足ではありますが、地域のお役に立てる ように頑張ってまいますので、宜しくお願い申し上げます。

このたび 9 月 24 日より、看護師として働いております川西美雪です。

今までになく未知の世界へ来てしまったと日々感じています。 思った以上に年老 いた私には大変ですが、前を向いて頑張っていこうと思います。

これからも色々な方に迷惑をかけると思いますが、ご指導のほど宜しくお願い 致します。

名称:鳥栖市田代基里地区地域包括支援センター

住所:鳥栖市田代本町 924-1

電話:0942-82-2041

7. お知らせとお願い

★ 第四回鳥栖地区介護支援専門員全体研修会について

講演 「地域包括ケアシステムの現状とケアマネの役割」

~ケア会議と協議体の違いについて~

講師 さわやか福祉財団九州1ブロックリーダー 阿部かおり氏

日時 平成29年2月13日(月) 13:30~16:00

場所 鳥栖市民文化会館 3階研修室

*いつものように各事業所宛てに文書でご案内いたします。

★ 協議会への入会申込・変更届・退会届について

当協議会ホームページ「鳥栖地区介護関連協議会」の2015.6.26の記事に 各種様式を掲載しております。

勤務先が変更になられた際には変更届の提出を忘れずにお願いします。



54060626

ケアマネ業務、毎日お疲れ様です。

今年もの残りわずかとなり、ケアマネ業務や年末の家事等で忙しく 過ごしていると思います。

我が家では、10月末に重大事件の勃発、夫が歩行中の交通事故!!

左足の骨折程度で済みましたが、夕暮れ時、黒っぽい背広、黒のカバン

黒ずくめで、相手の方も直前まで、解らなかったそうです。

冬場は夕暮れも早く、服装も黒系統が多いため、運転中は歩行者等が見えにくくなっています。特に年末年始と交通量も多くなりますので、車の運転には注意しましょう。

また、歩行時もなるべく反射するものを身に着けるや、明るい色の服装にして、

車にも判別しやすくして事故を未然に防ぎましょう。

夫も毎日、イタイ・イタイと悲鳴を上げながらリハビリを行っていますが、家族の叱咤、 激励に、顔を歪ませながら、お正月には自宅に戻れるように頑張っています。

鳥栖地区広域市町村圏組合介護保険課 http://www.kttnet.co.jp/tosukaigo

佐賀県介護保険事業連合会 http://www.sagadensan.net/skr/

佐賀県介護サービス情報公開システム http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do

厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp WAMNET http://www.wam.go.jp

鳥栖地区介護支援専門員協議会 http://www.tosukaigo.com/

会報 編集委員 永松丈幸 木下里美 松雪 幹一 鳥栖地区広域市町村圏組合

発行責任者 梅木 康一

発行 鳥栖地区介護支援専門員協議会

事務局 東町わたや薬局